

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100200		
法人名	株式会社 わかば		
事業所名	グループホーム わかばの家 河原		
所在地	鳥取市河原町渡一木156番地1		
自己評価作成日	平成21年10月15日	評価結果市町村受理日	平成21年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日	平成21年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

見晴らしも良く、環境にも恵まれたのんびりくつろいだ雰囲気の中で、個々の時間を過ごしておられます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

河原城のふもとに位置し、小学校に隣接されたゆったりとした間取りの平屋建ての施設です。リビングから見える河原城、小学校のグラウンドでは、賑やかな子供達の声が聞こえ、家庭的な雰囲気の中、普通の生活を送り、無理のない範囲で出来ることをされています。利用者一人ひとりの能力を最大限に引き出せるよう支援されています。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人ひとりの性格・能力を活かし、地域に馴染み、楽しみのある生活ができるよう努めている。生活の場として和める環境・関係作りを重視し、入居者と職員がゆったり過ごせる時間を大切にしていこうと努めている	地域密着型サービスの意義を踏まえ独自の理念がつけられています。入居者一人ひとりの能力を活かし、楽しみながら生活できるよう支援されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体に参加し、行事へ参加をしている。日常的に散歩や近くのスーパーへ買い物に行き、ご近所の方々と世間話ができる環境を作っている。	自治体に参加し、行事等に参加されています。また、日常的に散歩や買い物に出かける機会を持たれています。	地域、近隣の人との交流をさらに深められるよう期待いたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集会に出掛けて行き、グループホームがどのような所で、どのような支援をしているか説明し理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議で出た意見を取り入れサービスの向上に努めている。また、地域で生活する上での助言を求め、相談し合える場となっている。	運営推進会議では、前回の議題への取り組み状況等の報告がなされ、地域で生活する上での話し合い、相談、意見交換がされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用できるサービス情報などを提供していただくよう依頼する。また、疑問に思う事など問い合わせ、サービスに活かしている。	利用できるサービス情報等を提供してもらえるよう、密に連絡をとりながら、積極的に協力関係が築けるよう取りくまれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由に動いていただけるよう開放的な環境にしている。入所者が外出しそうな気配を感じた時は、さりげなく見守りそとと着いていきタイミングを見て声かけを行い、無理に連れ帰ろうとせずに付き合うようにしている。	玄関の施錠をすることなく、見守りをされながら誘導されています。また、その人らしい生活が送れるよう支援されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入所者に対する日頃の声かけに対し、尊厳が守られているかをスタッフ同士で話し合いを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それらの調査段階での援助にかかわる機会はあったが、申請などの手続き援助はまだ経験していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ丁寧に説明している。入所にあたり必要な料金		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、ご面会時出来るだけ声をかけ、ゆっくり話が出来る様な雰囲気作りに留意している。 入所者と一緒にゆったりとした時間を過ごしながら、会話の中で出てくる要望を的確にとらえよう留意する	面会時、家族の中での話、介護者がきづいたこと、利用者の言いたいこと、私の願いなどを記録され、それらを運営に活かせるよう努められています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や日頃職員の意見を聞き、意見をまとめ反映させている。	月に2回、定期的にスタッフ会議が行われ、職員の思い、意見等が反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常の業務に関わる内容の研修を月に一度行っている。また、外部で行われている研修の案内を行い、スタッフの意識・技能の向上を図るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を県外の関連会社のグループホームで研修する機会を作り。また、他の事業所を見学・訪問する機会を作るなど、サービスの向上を図る取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談で生活状態を把握するように努め、今困っていること、不安な事などを無理に聞き出そうとせず、本人から話してもらえるよう導くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の居ない場所で、家族の本人に対する思い、これまでの経緯、事業所に対する要望を、ゆっくりうかがうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所内で出来る限りの要望にこたえられるよう配慮した上で、対応できない事が発生した場合には必要としているサービスがどこで受けられるのかを説明し、その場合は紹介もします。と説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし、一緒に行動し、手伝ってもらったこと、教えてもらったことに感謝することで、暮らしを共にしているという思いを感じてもらえるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の置かれている状況を説明し、支援方法を相談し提案し合えるように努める事で、徐々に共に支援していく関係が築けている例が増えつつある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時にそのような方がいるかを家族を含め聴取し把握に努めている。また、面会に来ていただけそうな方についてもお聞きしている。	一ヶ月に1回、定期的に自宅訪問されたり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の入居者同士の関わりあいについて、職員同士意見を交換し、ストレスを溜めず、心地よく過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去までの経緯、退去時の状況などの情報を提供している。また、その後を心配した手紙を送らせていただいた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事あるごとに以前の暮らしについて話してもらい機会を作ったり、希望を問いかけて把握するように努めている。把握できない場合は、本人の行動を抑制する事がないように配慮し、出来るだけ自由に過ごせるように努めている	事あるごとに、以前の暮らしについて、話される機会を作られています。また、困難な利用者には、本人本位に検討されながら、自由に過ごせるよう配慮されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接や事前情報として本人や家族に伺うようにしている。また、普段の会話の中で得た情報なども職員間で共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の出勤時一人一人に挨拶を交わしながらゆっくり会話することで、心身の健康をチェックとコミュニケーションを図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝の出勤時一人一人に挨拶を交わしながらゆっくり会話することで、心身の健康をチェックとコミュニケーションを図っている。	スタッフ会議では、利用者の課題とケアのあり方について、本人、家族に必要な関係者に現状報告がされています。また、それぞれの意見、アイデアを反映した介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ多くの情報を記録として残しているが、記録を基に分析するには難しい状況となり活かしきれないことが多い。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の宿泊・お食事などもご希望があれば対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへ散歩がてら買い物に行く、公民館・小学校での催しへ出かけるなど、職員と一緒に歩いていき気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医に定期往診をお願いしている。急な受診は、家族と連絡をとり、基本的には家族に対応していただいているが、出来ないようであれば施設でも対応している。	月に一回定期往診がなされ、かかりつけ医と事業所の関係を築かれながら、支援をうけられています。また、急な受診の時、家族の対応が無理な場合でも対応されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している事業所の看護師に協力を仰ぎ、必要な情報提供を行ってもらっている。また、看護師でなければできないような医療行為や、医療的な相談などでも協力を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人・家族が、安心して治療できるように病院への情報提供を行い、週に一度はお見舞いに出かけるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の支援のあり方として必要だと思うが、体制がまだ整っておらず、協力医、協力者を確保し、体制を整えていきたい。	事業所ができることを十分に説明されながら、方針を共有できるよう努力されていますが、体制がまだ整っていません。	協力医、協力者等の確保をされ、体制を整えられることを期待いたします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練を行い、必要な手当を迅速に行えるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、慌てる事がないように落ち着いた行動がとれるよう、マニュアルをすぐ見えるところに備えている。	年2回、事業所で定期的に訓練が行われ、消防署の協力も得られています。マニュアルも職員が見えるところに置かれ、緊急時でも落ち着いて行動できるよう配慮されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格を把握し、プライドを傷つけないように言葉掛けの一つ一つに注意を払うよう配慮するよう努めている。	利用者一人ひとりの性格、生活歴を把握され、出来ないことはさげ、プライドを傷つけないよう配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢がある場合、一人ひとりに問いかけゆっくりと自己決定を待つよう努めている。また、拒否を示すような状況の時は、無理に押し付けず、時間を置き、再度声かけをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を把握し、それぞれ自由に時間を過ごしてもらったり、本人が意欲的に取り組める作業などを中心に行ってもらいながら過ごしてもらるように努めている。不調の方がいる場合は無理をせず、行事等を別の日に変更するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の好みを尊重し自由に洋服を選んでもらうようにしている。起床時や、入浴後鏡を見てもらい気持ちに沿った支援を心がけている。必要時には福祉理美容さんを呼び、毛染め・カットなど本人の意向に合わせた対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物をリクエストしてもらい、調理に参加して貰うなど、一人ひとりの能力に応じた参加を促している。また、畑で収穫できた野菜などを取り入れ収穫の喜びも感じてもらうように配慮している。	献立のリクエストをしてもらい、能力に応じて調理に参加してもらわれています。月1回、外食や弁当持参ででかける機会を作られ、変化のある食事も楽しまれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を中心にした薄味の調理を心がけている。魚や肉類は大体交互になるように努め食事摂取量、水分摂取量を個人別に把握するように努めている。水分摂取量が少ない場合は、デザート風にゼリーなどで摂れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後こ口腔ケアを促す声かけを行い、出来るだけ本人による自立した口腔ケアを促すように心がけている。見守りを行いどの程度出来ているか把握し、本人が出来ない場合はひとつずつ動作を説明するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心を傷つけないよう配慮しながら、個人のレベルに合わせた援助を心がけている。尿意がある方に関しては心理的な面を重視し布の下着に変更しパットのみの使用に留めていけるよう努めている。	排泄チェック表をもとに、個々のレベルに合わせた援助がなされています。尿意のある利用者には、布の下着に変更し、自立に向けた支援がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通の有無の把握に努め、食物繊維が多い食材を使った食事を心がけ、リハビリや気分転換を兼ねた散歩や室内歩行や体操、水分摂取の促し、乳酸菌飲料の摂取など自然な排便を促すように配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には二日に一度の入浴としているが、希望や体調により中止された方がいる場合、時間を置き再度入浴を勧めたり、入浴を希望する方に入ってもらうなどの対応をしている。	基本的には、二日に一度の入浴とされています。希望や体調により中止された場合は、再度タイミングをみながら入浴を勧められ、個々に合わせた柔軟な支援がされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に合わせて、夜間の睡眠を妨げにならない程度に配慮しながら、一人でゆっくり休みたい方は居室で、孤独感を感じやすくにぎやかな場所を好まれる方にはフロアの一角にある畳のコーナーで横になるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、処方されている薬が把握できるようにしている。薬の変更があった場合は職員の連絡ノートや、日報に記録し体調に変化が見られた場合の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴、嗜好品、趣味などを本人または家族から聞き取り、また日頃の生活の中で見つけていき、生活意欲を向上できるように努めている。農作物を育てる、梅干しやラッキョウを漬けるなども楽しみながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し、喫茶店・外食・買い物などに出掛けられるよう配慮しているが、急な希望にはなかなか対応できない場合もある。	利用者の希望を把握し、喫茶店、外食、買い物などに出かけられています。また、家族との外出支援も配慮されています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の意向を大切に、本人が安心できる形をとっていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を出来るようにしているが、援助が必要な方が多く、本人がかけられない場合は申し出てもらえるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には歩行の妨げになるようなものは置かない様に配慮し、歩行途中疲れた時休憩場所として、また、入居者同士の触れ合いの場として長椅子を二つ置いている。静かな環境でひとりで過ごしたい時などにも利用されている。	廊下には、歩行の妨げになるようなものは置かないよう工夫され、休憩場所として、利用者同士の触れ合いの場として、長椅子が置かれています。また、生活感、季節感をとり入れられた間取りで、河原城をバックにより居心地のよい工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自の席のほか、1人用のソファ、3人用のソファ、居室前の廊下に長椅子が2つあり自由に居場所を確保できるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、家具、衣類、必要な生活用品は本人が安心でき、心地よく過ごせるよう、使い慣れたものを持ってきてもらうようにお勧めしている。	居室には、本人が使い慣れた馴染みのものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ本人自身で行動が出来るようまた、不安が軽減できるように、わかり易い言葉で、見やすい高さで大きな文字で表示をするよう努めている。		